

遥かなる華の都



選者の言葉

—総評—

今回はテーマが難しかったせいか、前回に比べやや主催者の意図とかみ合いにくかったかもしれません。「華」を何に掛けるか？様々な考え方が個々人にはあると思います。

単純にきれいな風景だけではなく、また、花を撮影しただけの作品ではなく、文化や遺跡などを個々人の感性で絡めた作品を期待していました。イベントなどの写真の応募も多数ありましたが、シャッターチャンスやフレーミングなど、もう工夫欲しいところです。

前回もそうでしたが、カメラブレやピントの甘いものがやや目立ちます。写真にはブレてもかまわないものとブレてはいけないものがあります。小型カメラはカメラブレに弱いので、ブレ防止機能を過信するのではなくしっかりと三脚を据えて撮影に臨みたいところです。

今回は、コンパクトデジタルカメラで撮影された作品も多数応募されていますが、こちらはピントが手前から奥まで妙に合いすぎて（いわゆるパンフォーカス状態）どこか違和感があるものが見受けられます。コンパクトカメラの宿命と言えはそれまでですが、絞りのマニュアル設定があるならばそちらも利用してみてもどうでしょう。また違った雰囲気の写真が撮れると思います。次はカメラの特性や機能を生かした皆さんの力作にも期待します。

第3回の写真展は冬頃ですが、より皆さんが親しみやすくイメージしやすいテーマでコンテストをおこない、飛鳥・藤原の魅力ある写真が集まるようにしたいと思います。

（遥かなる華の都 審査委員会）